第45回 特別展

皇室の御養蚕と信州

紅葉山御養蚕所（写真：宮内庁提供）

繭4種　左から小石丸、日本種と中国種の交雑種（白繭種）、欧州種と中国種の交雑種（黄繭種）、野蚕の天蚕（宮内庁 蔵）

平成29年

7/15(土)▶8/20(日)

おかげさまで15周年

駒ヶ根シルクミュージアム

〒399-4321 長野県駒ヶ根市東伊那482番地
TEL0265-82-8381 FAX0265-82-8380
E-Mail shiruku@cek.ne.jp
URL https://komagane-silk.com/

AM9:00～PM5:00（最終入場PM4:30）水曜休館日

入場料／一般（高校生以上）300円（団体割引200円）
小中学生100円（団体割引50円）　その他割引有

主催：駒ヶ根シルクミュージアム

協力：宮内庁、群馬県立日本絹の里、
国立大学法人東京農工大学科学博物館、岡谷蚕糸博物館、
上田市立博物館、扇子歴史情報研究所

後援：長野県、中央蚕糸協会、一般財団法人大日本蚕糸会、
信濃毎日新聞社、中日新聞社、長野日報社、NHK長野放送局、
SBC信越放送、NBS長野放送、TSBテレビ信州、
abn長野朝日放送、エコシティー・駒ケ岳

第45回 特別展 皇室の御養蚕と信州

平成29年 7/15㊏▶8/20㊐

「養蚕皇国栄」梅堂国政 筆　明治11年（扇子歴史情報研究所 蔵）

皇室の御養蚕は、明治から大正、昭和と時代が経過する中で歴代の皇后に継承されている。平成の今も皇后様が毎年かつての養蚕農家が行っていたと同様の一連の作業行程を自ら手作業でなさっている。飼育されている蚕のうち小石丸は、その繊細な糸が古代裂の復元に不可欠なものであることが分かり、正倉院宝物の復元や、絵巻の名品、春日権現験記絵の修理などに役立てられ、文化財の復元という新たな役割を担っている。

この度の展示は、皇室の御養蚕と信州（長野県）の関わり合いを辿りながら、現在の皇室の御養蚕と文化財の復元修理面での貢献について紹介する。また、かつて蚕糸王国と言われた信州の養蚕・製糸の歴史も振り返る。

特別展関連イベント

〈講演会〉

テーマ／「皇室の御養蚕について」

講　師／紅葉山御養蚕所主任 **代田　丈志 氏**

開催日／7月23日（日）
時　間／午後1時～
会　場／駒ヶ根ふるさとの家セミナーハウス
定　員／100名（要予約）
参加費／無料
お申込お問合せ先／電話 82-8381

代田　丈志 氏 プロフィール

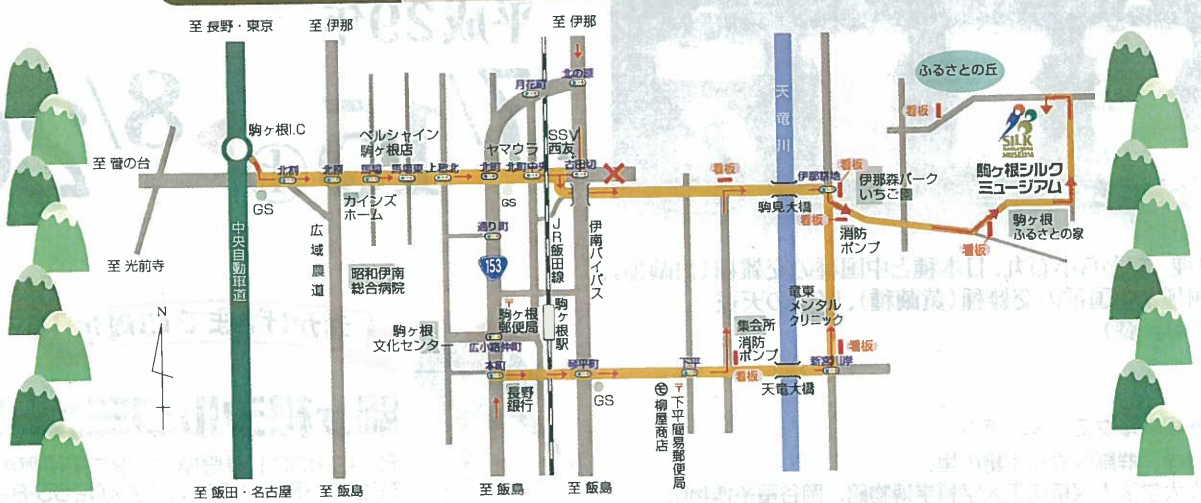
紅葉山御養蚕所主任
農学博士
元(一財)大日本蚕糸会
蚕業技術研究所上席研究員（長野県出身）

着物でご来館のお客様に

1. **小石丸繭でつくった髪飾りプレゼント**
（展示期間中　先着20名様）
2. **展示室入場半額**
（平成30年3月末まで）

交通のご案内

駒ヶ根インターより10km　所要時間／車で約20分



駒ヶ根シルクミュージアム

〒399-4321 長野県駒ヶ根市東伊那482番地
TEL0265-82-8381 FAX0265-82-8380
E-Mail shiruku@cek.ne.jp

URL https://komagane-silk.com/

AM9:00～PM5:00（最終入場PM4:30）　水曜休館日

入場料／一般（高校生以上）300円（団体割引200円）
小中学生100円（団体割引50円）　その他割引有

2020 丹後ちりめん創業300年

世界を魅せる　丹後シルクイノベーション

基本的な考え方

約1300年前の天平の時代から絹が織られてきた丹後地域に、1720年に「ちりめん」の技術が伝わり、地域のものづくり産業の基礎として発展してきた。

「スポーツと文化の祭典」である東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催させる2020年に「丹後ちりめん創業300年」を迎えることから、丹後地域の織物文化と地域の魅力を広く発信する絶好の機会ととらえ、次に掲げる「目指すべき姿」に向け、丹後地域一体となって取り組む。

目指すべき姿(2020 年のあるべき姿)

「絹織物といえば丹後」と、デザイナー・バイヤーが行き来する creative な地域

地域産業振興等を通じて、地域の子ども達や若者が「夢」「希望」「刺激」が体感できる地域

【目標設定】
- ○ 新たな織物業に携わる人数　4年間で100名
- ○ 地域外のデザイナー・バイヤーの訪問人数　4年間で延べ200名
- ○ 世界最高峰テキスタイル見本市「Premiere Vision」等への出展事業者数　10社
- ○ 織物事業者が取り組む新たな販路や分野での出荷額　4年間で4億円

事　業　体　系

新たな販路開拓・新商品開発

- 海外ブランドデザイナーを丹後に招聘、世界コレクション等での発信を通じた新商品開発
- 海外見本市等への出展促進
- 国内首都圏での産地単独商談会の開催
- 医療、美容、健康分野進出に関する取組の推進

産地を支える生産基盤（ひと、もの）の再構築

- 国内外の優秀なﾌｧｯｼｮﾝ関連学生や若手ｸﾘｴｲﾀｰ等の招聘による人材の育成（Tango-Residence）
- 地域の子ども達が世界トップレベルの技術や人に触れる機会の創出
- ジョブパーク等と連携した人材の確保・育成
- 新商品開発等に必要な設備投資に対する支援
- 養蚕等の取組（京丹後市、与謝野町）の推進

地域全体での流通環境の改善

- 観光客が容易に買える環境づくり（集約場所の設置、購入やレンタル情報の集約・発信）
- 地域全体での海外からの受注・販売システムの構築
  （受注から発送（海外取引手続きを含む）までの仕組みづくり、窓口機能、ＨＰ多言語対応）

あらゆる機会での情報発信

- 海外を含む地域内外から「ひと」「もの」が集い、交わる記念イベント（それまでの取組を集大成したイベント）の開催（２０２０年開催）
- ＳＮＳの積極的活用と地域イベントと連動した情報発信

世界遺産登録3周年記念

紅（あか）い襷（たすき）

～富岡製糸場物語～

激動の明治初期、
女性たちの誇りが
そこにはあった。

水島優　吉本実憂　桐島ココ　木村夏子　ジリ・ヴァンソン　太田緑ロランス　金澤美穂　藤原希　中井ノエミ
近童弐吉　木村知幸　愛華みれ　佐伯日菜子　磯部勉　高橋ひとみ

田原佳奈　虻川美里　伊藤友里恵　石川純　堀越桃子　五十嵐葵　高橋綾　大森英里佳　中山歩美　久野愛　橋本真生　高倉彩　宇佐美菜穂　田嶋真弓　加藤真弓
石津沙結子　高野恵理　磯部莉菜子　門田かおり　中郁美　後藤幸子　すがの真以　真柴幸平　大坪Aysenur　大前洋子　波連ゆかり　上杉守　富岡市のみなさん

豊原功補　西村まさ彦　大空眞弓

企画・製作：富岡市　製作総指揮：岩井賢太郎　監修：今井静夫、クリスチャン・ポラック　構成・総合プロデューサー：家喜正男　プロデューサー：大谷千明樹、櫻井顕　作：松井香奈　音楽監督：谷川賢作
エンディングテーマ曲：「あの空へ」作詞／松井香奈　作曲／谷川賢作　編曲／深堀瑞穂　コーラス／栗友会合唱団　指揮／赤坂有紀　歌／水島優
<ドラマ> 監督：足立内仁章　撮影監督：高間賢治（J.S.C.）　美術：西沢和幸　照明：上保正道　録音：坂上賢治　衣装：野口吉仁　結髪・ヘアメイク：西口富美子　助監督：後藤克樹　記録・編集：城島純一　制作担当：谷高明　VFX：永井努、清原穂高
<ドキュメンタリー>ディレクター：路川敬　撮影：稲田晃宏　フランスロケ：コスモメディアヨーロッパ
協力：認定NPO法人富岡製糸場を愛する会、群馬県立富岡東高等学校、岡谷蚕糸博物館　制作：NHKエンタープライズ　配給：パル企画　©2017 富岡市／富岡製糸場映画製作委員会　（2017／100分／カラー／日本／ビスタサイズ／デジタル）

www.akaitasuki.com

明治維新、日本の大転換期——

若き女性たちの活躍が、産業のあらたな扉をひらいた知られざる感動の物語

物語 明治6年春、長野県松代区長の娘・横田英は反対する父を説得し、松代と新しい日本の為、同郷の河原鶴らとともに富岡製糸場に工女として入場した。明治政府は明治5年、群馬県富岡市に西洋と日本の技術を融合した世界最大規模の製糸工場を設立したが、工女集めに難航していた。フランスから招いた"生糸の神様"と呼ばれるポール・ブリュナ達フランス人に"生き血を抜かれる"という荒唐無稽な噂話が全国に広がっていたからだ。しかし、製糸場に到着した英が目にしたのは、これまで見たこともない別世界、壮大なレンガの建物とピカピカの器械、そして西洋式の労働環境の中で真摯に糸を引く先輩工女たちの姿だった。全国から集まった工女たちは、紅い襷を掛けることが許されている一等工女になり、一日も早く技術を習得し故郷に戻ることを夢見ていた。その姿に刺激された英と鶴らも、紅い襷を皆で目指すことを誓った。だが現実は、フランス人教師の厳しい指導や時には待遇の差、容易ではない糸取り作業、苦労の連続だった。そんなある日、彼女たちのもとへウィーンから驚くべきニュースが届けられた・・・。

2014年、世界遺産に登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」。それは、かつて日本人とフランス人の女性がともに、時代を切り開いた証しです。

明治初期、日本の近代化を大きく牽引した輸出品は重厚な「軍艦」ではなく、しなやかな「絹」でした。
その生産を支えていたのは、名もなき女性たちの手であったことをご存知でしょうか。
故郷を離れ、新しい日本のために糸をひき続けた若き工女たちと、フランスから、
製糸業を通して日本の近代化に尽力した、製糸場の首長ポール・ブリュナとエミリ夫人、そして厳しくも
温かいフランス人女性教師。彼女らによって、日本に新たな産業の風が吹き込まれたのです。
工女たちが、それぞれの不安や葛藤を抱えながらも、次第に身分や国境を超え、
近代化という扉を自ら開いた先で手にしたものとは？
そして「生糸の神様」と呼ばれたブリュナが日本に残したものとは……？
近代製糸業の始まりを担った若き工女たちの姿を、長野・松代の工女・横田(和田)英の手記をもとに紐解いていきます。

2017年10月7日(土)より
群馬県内先行ロードショー

けやきウォーク前橋 2F
ユナイテッド・シネマ前橋
0570-783-727

イオンモール高崎 3F
イオンシネマ高崎
027-310-9702

※タイムテーブル、上映期間は各劇場にお問い合わせください

明治維新、日本の大転換期——

若き女性たちの活躍が、産業のあらたな扉をひらいた知られざる感動の物語

物語 明治6年春、長野県松代区長の娘・横田英は反対する父を説得し、松代と新しい日本の為、同郷の河原鶴らとともに富岡製糸場に工女として入場した。明治政府は明治5年、群馬県富岡市に西洋と日本の技術を融合した世界最大規模の製糸工場を設立したが、工女集めに難航していた。フランスから招いた"生糸の神様"と呼ばれるポール・ブリュナ達フランス人に"生き血を抜かれる"という荒唐無稽な噂話が全国に広がっていたからだ。しかし、製糸場に到着した英が目にしたのは、これまで見たこともない別世界、壮大なレンガの建物とピカピカの器械、そして西洋式の労働環境の中で真摯に糸を引く先輩工女たちの姿だった。全国から集まった工女たちは、紅い襷を掛けることが許されている一等工女になり、一日も早く技術を習得し故郷に戻ることを夢見ていた。その姿に刺激された英と鶴らも、紅い襷を皆で目指すことを誓った。だが現実は、フランス人教師の厳しい指導や時には待遇の差、容易ではない糸取り作業、苦労の連続だった。そんなある日、彼女たちのもとへウィーンから驚くべきニュースが届けられた・・・。

2014年、世界遺産に登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」。それは、かつて日本人とフランス人の女性がともに、時代を切り開いた証しです。

明治初期、日本の近代化を大きく牽引した輸出品は重厚な「軍艦」ではなく、しなやかな「絹」でした。
その生産を支えていたのは、名もなき女性たちの手であったことをご存知でしょうか。
故郷を離れ、新しい日本のために糸をひき続けた若き工女たちと、フランスから、
製糸業を通して日本の近代化に尽力した、製糸場の首長ポール・ブリュナとエミリ夫人、そして厳しくも
温かいフランス人女性教師。彼女らによって、日本に新たな産業の風が吹き込まれたのです。
工女たちが、それぞれの不安や葛藤を抱えながらも、次第に身分や国境を超え、
近代化という扉を自ら開いた先で手にしたものとは？
そして「生糸の神様」と呼ばれたブリュナが日本に残したものとは……？
近代製糸業の始まりを担った若き工女たちの姿を、長野・松代の工女・横田(和田)英の手記をもとに紐解いていきます。

12月2日(土)~14日(木)限定ロードショー

※タイムテーブル、上映期間は各劇場にお問い合わせください

JRハチ公口・渋谷ロフト前・三葉ビル7F
渋谷シネパレス
03-3461-3534
www.mitsuba-inc.co.jp/scp/

あか　たすき

紅い襷展

世界遺産登録
3周年記念

平成29年7月1日(土)～10月22日(日)

【場所】富岡製糸場東置繭所内

【料金】無料（別途、富岡製糸場入場料が必要）

関連イベント

○トークショー及びミニコンサート
【日時】 9月23日(土)午前11時
【場所】 富岡倉庫
【定員】 200名

○握手会及びサイン会
【日時】 9月23日(土) 午後1時
【場所】 富岡製糸場東置繭所

【出演者】
水島 優（横田 英 役）
吉本 実憂（河原 鶴 役）

※応募方法は広報とみおか8月号及び
富岡市HPにてお知らせいたします。
問い合わせ先：富岡製糸場戦略課
TEL 0274-64-0005

平成29年10月7日（土）劇場公開！
公開劇場：イオンシネマ高崎
ユナイテッドシネマ前橋

明治維新、日本の大転換期――

若き女性たちの活躍が、産業のあらたな扉をひらいた知られざる感動の物語

映画「紅い襷」公開に伴い、関連する企画展を開催します。

映画「紅い襷」あらすじ

2014年、世界遺産に登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」。それは、かつて日本人とフランス人の女性がともに、時代を切り開いた証です。明治初期、日本の近代化を大きく牽引した輸出品は重厚な「軍艦」ではなく、しなやかな「絹」でした。その生産を支えていたのは、名もなき女性たちの手であったことをご存知でしょうか。故郷を離れ、新しい日本のために糸をひき続けた若き工女たちと、フランスから、製糸業を通して日本の近代化に尽力した、製糸場の首長ポール・ブリュナと、エミリ夫人、そして厳しくも温かいフランス人女性教師。彼女らによって、日本に新たな産業の風が吹き込まれたのです。工女たちが、それぞれの不安や葛藤を抱えながらも、次第に身分や国境を超え、近代化という扉を自ら開いた先で手にしたものとは？そして「生糸の神様」と呼ばれたブリュナが日本に残したものとは・・・・・・？日本の近代化を担った若き工女たちの姿を、長野・松代の工女横田英の手記をもとに紐解いていきます。

展示内容

- 紅い襷看板パネル
- 出演者の写真パネル
- 富岡製糸場正門のイミテーション
- 映画予告編の放映
- メイキング写真
- 撮影で使用された衣装やセット
- 撮影で使用された明治期のピアノ
- 地元パネルコーナー
- 酒井登巳子氏による花まゆ作品
- ※富岡東高等学校が協力した歌（BGM）